

※このページが動画と共にウェブサイトにてPDF形式でアップロードされます。文字サイズは11で、用紙1枚に収まるようにまとめてください。

学校名	鈴鹿高等学校・鈴鹿中等教育学校		
タイトル	鈴鹿川水系のネコギギを守りたい！—20年目の取り組み—		
対象となっている野生生物	ネコギギ <i>Pseudobagrus ichikawai</i>		
活動開始年	2003 年	活動に関わっている学年および生徒の数（年間）	1～3年生 18名
活動の内容			
<p>鈴鹿川水系に生息する国指定天然記念物である夜行性の淡水魚ネコギギについて、2004年から生息確認のための調査合宿（4夜連続）を開始し、同個体群が危機的状況にあることが分かった。そこで、2017年に亀山市と鈴鹿享栄学園で飼育協定を締結し、ネコギギの生息域外保全事業を開始し、鈴鹿川水系での絶滅を回避する取り組みを行ってきた。得られたデータは地域に公開し、様々な方法での普及啓発活動に取り組んでいる。</p>			
活動による成果・効果または活動によって今後期待できること			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 生息地域でネコギギのパンフレットを配布し調査研究発表を行った。さらに、2008年には私たちが生息数100個体程度の高密度生息地を発見し、鈴鹿川水系におけるネコギギ研究が加速した。 ○ これまで、生息域外保全での一時飼育中に242個体の稚魚が得られ、うち148個体を個体群の補強として放流してきた。高校生がネコギギの飼育や繁殖に着手するのは前例がなかった。 ○ 私たちの活動は、環境展、科学コンテスト、ホームページなどで積極的に公開し、普及啓発活動に努めている。私たちが開催する「鈴鹿川のお魚観察会」では、地域の小学生と保護者が大勢参加し、飼育中のネコギギも観察する。2019年には「ネコギギサミット」が鈴鹿高校で開催された。 			
アピールポイント（活動において特に工夫したこと、注意・注目したことなど）			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 2008年に発見した個体群は、発見の1か月後の集中豪雨で3分の1に減少した。それからは、河川の構造を物理的に記録し、個体識別も継続し、個体群の回復の過程を記録してきた。 ○ 繁殖については、配偶行動が成立させることが難しかった。ふ化率、初期の生存率などを高めるために、みんなで意見を出し合い工夫してきた。日ごろからよく観察することで、配偶行動、各個体の標準体長の成長速度、病気の前兆など、様々なネコギギの特性の理解にもつながった。 			
今後の課題、これからやってみたいことなど			
<ul style="list-style-type: none"> ○ ネコギギの受精率と孵化後の生存率をさらに高めるために工夫を続ける。 ○ コロナ禍において、普及啓発動画の作成と配信、少人数での観察会の対応などをする。 ○ 今後もモニタリングを継続することで、生息地の環境変化に柔軟に対応できるようにする。 ○ 今後も成果を発信し認知度を高め、環境の改善を訴えていく。 			
自由欄			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 私たちの活動は、地域の方々、研究者の方々など、多くの方々の支えがあって成り立つため、つながりを大切にしていきたい。 ○ 子供たちが川で楽しい思い出を作るとは、川を守る地域づくりの第一歩だと感じた。 ○ ネコギギサミットが、東海3県のネコギギ保護の活性化につながると嬉しい。 			